

学習内容報告書

学校名	愛知県蒲郡市立西浦小学校
授業者	大嶽 裕美

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

ようこそ すてき館へ（案内の手紙を書こう）

1-2. 学年

3年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

国語

1-4. 単元の概要

これまで取り組んできた総合「にしうらのすてき」の学習から、海の生きものを飼い「すてき館」を作る。そこへ、2年生を招待するために、案内の手紙を書く学習活動を行う。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本学級の児童は、毎週月曜日の登校後の10分間に日記を書いており、短い時間の中でもずらずらと日記を書ける子が多い。しかし、日記を読んでもみると、平仮名ばかりで誤字や脱字が多く見られる。そして、たくさん書こうとすることばかりに気が向き、起きた出来事を順にだらだらと書いて、一文が長くなってしまふ。そのため、何を伝えたいのかははっきりせず、特に印象に残らない文章になってしまう。また、国語「想像を広げて物語を書こう」では、場面の一コマを参考にしながら、その時の人物の行動や会話を考えた。登場人物の設定メモに関連づけて書くことはできたが、細かな設定を意識するあまり、余分な説明が多くなってしまった。読む人のことを考えて文字を丁寧に書こうといった気持ちや、自分の伝えたいことをわかりやすく書こうという気持ちはなかなか持つことができていないように感じる。

読む人に伝わる文章を意識して書くことで、丁寧に文章を書く大切さに気づき、自分の伝えたいことをはっきりさせ、表現の工夫ができるようになってほしいと考えた。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

本単元は、これまで総合の時間に取り組んできた「にしうらのすてき」の学習から、海の生き物を飼い、「すてき館」を作り、2年生を招待し、案内の手紙を書く学習活動を行う。日時や場所など相手に伝える必要があることを落とさずに書くとともに、相手や目的を意識した表現で案内の手紙を構成していく。案内の手紙を書く学習には、次の要素が含まれていると考えた。

- ・案内の手紙は、相手の顔を思い浮かべることができ、伝えたいという気持ちや丁寧に書こうとする意識を高めることができる。
- ・短い文章でまとめていくため、自分の伝えたいことは何かを取捨選択しながら書くことができる。また、文章を考えることや、丁寧に書くことに苦手意識のある児童にとっても取り組みやすい。

・手紙を読んでもらい、相手に思いが伝わることのうれしさを味わわせ、その経験から書くことに対して前向きな気持ちを育てることができる。

1-7. 単元の展開（全 4 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	○案内の手紙に書かなければいけないことは何かな ・自分が案内したい行事や相手に合わせて、必要な事柄を考えてメモを書く。	○書かなければいけないことに気づかせるために、手本の手紙を見せる。 外部連携：総合「西浦のすてき発見」 評価：案内の手紙に必要な事柄を確かめ、手紙の構成や文章の書き方を理解することができる。
1	○案内文を考えて、友達の案内文のいいところを見つけよう ・文章表現の良さを気づかせるために、友達が書いた案内文を読み合い、いいと思ったところに線を引かせ、いいと思った理由を付箋に書いて貼る。	○教科書の例から、日時や場所など、箇条書きにすると分かりやすいことに気づかせる。 評価：友達の案内文の良さに気づき、伝え合うことができる。
1	○友達の案内文のいいところを発表して、書き直そう ・来てほしい気持ちが書かれている子の手紙を例に出して考える。	○展示内容、来てほしい気持ち、クイズ形式などの文章表現の工夫があることに気づかせるために、板書で仲間分けをする。 ○伝える必要のあることが書けているか確認するために、大事なことを一覧にした掲示物を見せる。 評価：下書きを読み返し、案内の手紙を清書することができる。
1	○清書して、友達同士で案内の手紙を読み合おう ・グループを作り、書いた手紙を友達と交換して読み合わせる。	○本単元の学習を振り返って感想を伝え合い、今後の生活に生かせるようにする。 総合「すてき館」へようこそ 評価：書いた手紙を友達と読み合って、単元の学習を振り返ることができる。

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 4 時間中の 3 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・友だちの案内文の良さに気づき、伝え合うことができる。
- ・来たくなる文章表現の工夫を使って、「すてき館」へ招待の案内文を書くことができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 小グループで意見を交流しよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>友達の案内文のいいところを見つけて、 2年生の子が来たくなる案内文を考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・Aくんの案内文がいいと思いました。理由は、かにかにに触れると書いてあって、楽しそうだからです。 ・Bくんの案内文がいいと思いました。理由は、作った人の頑張りが伝わってきて、行ってあげたい気持ちになったからです。 <p>2 友達の案内文のいいところを紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Cさんの案内文がいいと思いました。理由は、クイズになっていて答えが気になるからです。 ・CさんとDさんは、どちらも「来てください」と書いてあって、丁寧でいいと思いました。「来てください」という言葉は書いたほうがいいと思います。 <p>3 「すてき館」のお部屋の案内文を書き直そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A君の案内文を見て、かにかにに触れられるといった楽しそうなことを書いてみようかな。 ・B君の案内文みたいに、自分の気持ちを詳しく伝えるのもいい方法だな。 ・Cさんはクイズ形式にしている楽しそうな案内文になっていたな。かにかにや魚のことをクイズにして書いてみよう。 <p>4 ふりかえりをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来てほしい気持ちをくわしく書くだけでなく、クイズ形式にしても来てほしい気持ちが伝 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な案内文のよさに気づかせるために、前時にえらんだ友達の案内文のいいところを発表させる。なぜいいと思ったのか、理由も伝えるようにする。 ・文章のどんなところが良かったかをグループで共有するために、グループ全員の子の文章をまとめたものを配布する。 ・出し物の内容、来てほしい気持ち、クイズ形式などの文章表現の工夫があることを気付かせるために、教師が板書で仲間分けをする。 ・意見が出たところで、文章表現の工夫の全てを書くことが伝わりやすい文章になるのか考えさせ、自分の伝えたいことを選んで書くことの大切さに気付かせる。 ・案内文を書くのに困っている子に対しては、友達の案内文の良いところを取り入れるように伝える。 ・文章表現の工夫に気をつけて書けたか確認するために、机間巡視を行い、文章表現の工夫を使って案内文を書き直した児童を指名する。

わるから、変えてよかったです。

- ・来てほしい気持ちが伝わるように「ぜひ来てください」の文をつけ加えました。

3. 今回の活動の自己評価

- ・自分の手で捕まえてきた生きものを飼うことで、愛着をもって世話をすることができた。
- ・毎日、お世話することで生き物を飼うことの大変さ、命の大切さを知り、クイズ形式など自分だけが知っている情報をもつことができた。
- ・一生懸命とかがんばっているという感想が多かった。何をがんばってきたのか具体的なことが書けなかった。
- ・お世話をした記録をたくさんとっておくとよかった。
- ・日頃の授業で語彙力を増やしておく必要がある。

4. 今後の課題

- ・生きものなので毎年飼えるとは限らない。飼いたい生きものがとれないこともある。
- ・くじ海岸で活動できる内容を増やしたい。
- ・語彙力をふやしていきたい。
- ・字を丁寧に書くことを定着させたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・手紙を書いてよかったという達成感をもたせると同時に、書く意欲を継続させるとよい。
- ・文章を書き直すことに抵抗を感じる子どもも多いかもしれないが、2文、3文ごとに区切って書き直させることで、間違いがなくなり、書き直しをする回数を少なくすることができる。